

VaR・自己資本比率制約下での金融機関行動を内生化した

DSGE モデルに関する研究

(要旨)

松村 隆

近年、金融機関の資産構成に変化が見られる。従来は貸出の比率が圧倒的に大きかったものの、近年では有価証券などの公債投資の比率が高まってきているのである。更に、金融危機時の損失吸収力を高めるため、近年、自己資本比率規制の強化について検討が行われている。こうした規制の強化は、金融機関の行動を強く規定し、金融機関の資産構成、ひいては経済全体にも影響を及ぼすことが想定される。

そこで本研究では、金融機関の行動を現実妥当性の高い形でDSGEモデルに組み込み、更に、自己資本比率規制の強化についても分析可能とする新たなモデル開発を行った。具体的には、金融機関が VaR 制約下で貸出と公債投資を行うという資産選択行動をとるとした既往モデルに、金融機関の自己資本比率制約を加えることで新たなモデル構築を行っている。

構築したモデルに対してはカリブレーションを行い、各種ショックの波及効果について分析を行った。そして、金融機関の自己資本比率規制の違いによって、ショックの波及効果の大きさが異なることを明らかにした。